

国際通貨研レポート



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

公益財団法人 国際通貨研究所

2026年3月18日

ブラジル・メキシコのエネルギー事情 ～ブラジルの優位性強まる～

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員
森川 央
morikawa@iima.or.jp

1. ブラジル・メキシコのエネルギー構成

ブラジルとメキシコが1年間に使うエネルギーの総量(2024年)は、それぞれ10.71EJ、8.03EJで、世界全体の1.8%、1.4%である。¹ ブラジルの消費量はメキシコの1.33倍であるが、国民1人当たりの消費量では、メキシコが上回っており、メキシコはブラジルの1.22倍となっている。²

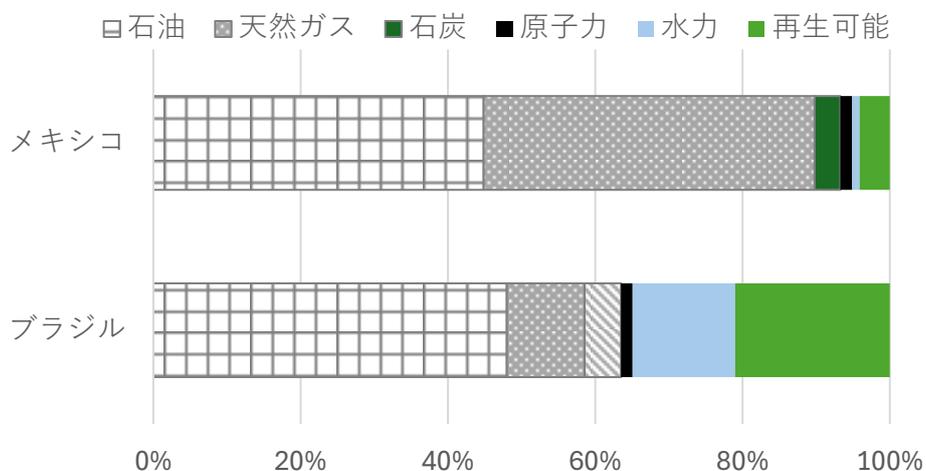
両国のエネルギー構成をみると、メキシコは石油に44.8%、天然ガスに45.0%、石炭に3.5%と化石燃料に大きく依存している(合計93.3%)のに対し、ブラジルは石油こそ48.0%と高いが、天然ガスは10.6%、石炭4.9%で合計63.5%に過ぎない。その代わりに水力13.9%、再生可能エネルギー21.0%と、合計34.9%を自然由来のエネルギーで調達している。³ それに対し、メキシコの自然由来エネルギーは5.1%と低いことが特徴である(図1)。

¹ ジュールは仕事および熱量の単位で、エクサジュール(EJ)は10の18乗ジュールのこと。

² ちなみに日本の1人当たり消費量はメキシコの2.16倍である。

³ 両国とも原子力のシェアは1.6%と小さい。

図 1 ブラジルとメキシコのエネルギー構成

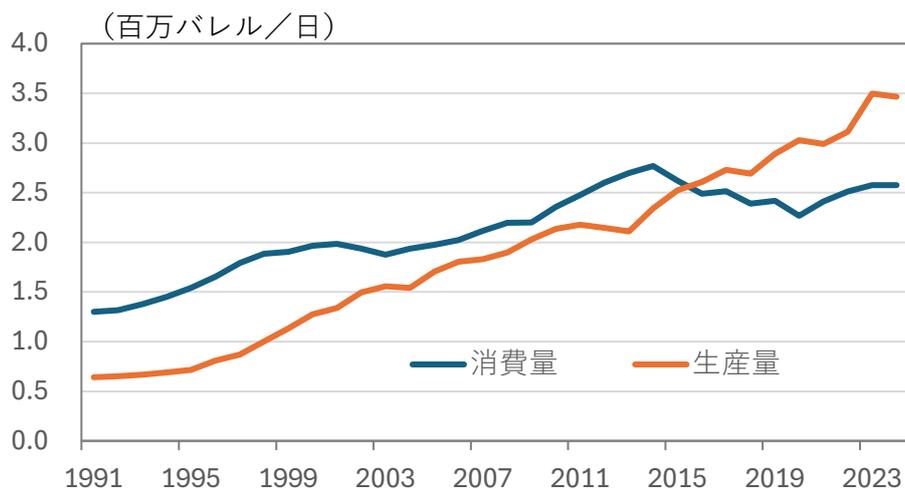


(資料) BP

2. 自給率の高いブラジル、石油生産が先細りのメキシコ

次にエネルギー自給率の観点から両国を比較してみる。水力を含め自然由来エネルギーのシェア向上はそのまま自給率の上昇につながる。さらにブラジルは 1990 年代から海底油田開発に着手し、今世紀に入ってから本格的に稼働を始めた。2016 年からは生産量が消費量を上回り、輸出余力が生まれるほどになっている (図 2)。

図 2 ブラジルの石油生産・消費量

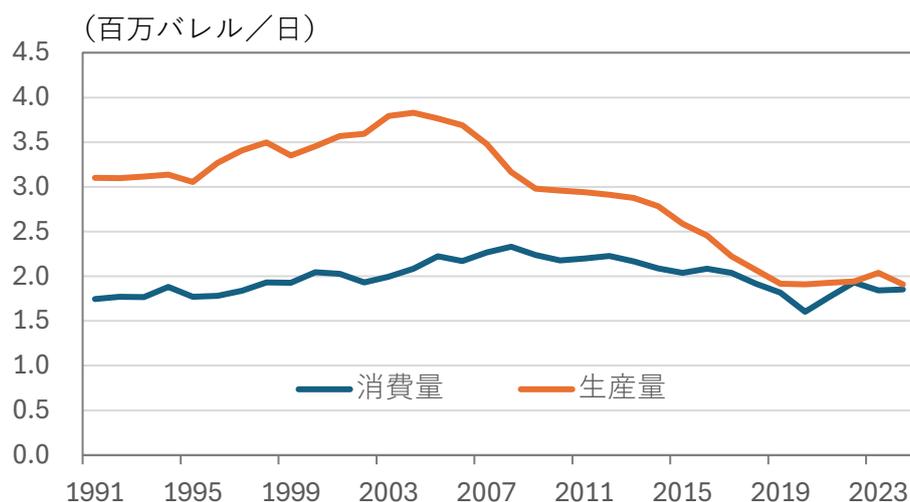


(資料) BP

一方、メキシコでは石油生産量が減少している。生産量がピークを迎えたのは 2004

年で当時の生産量は 383 万バレル／日であった。その後は減少トレンドが続いており最近 5 年間（2020 年～2024 年）の平均生産量は 195 万バレル／日で、ピークの 2004 年と比べると 49%減となっている（図 3）。また同年のブラジルの生産量（322 万バレル／日）を 39.4%下回っている。

図 3 メキシコの石油生産・消費量



(資料) BP

メキシコの石油消費量は 90 年代以降長く横這いになっているが、生産量の低下により近年では両者は接近しており、メキシコ政府からも 2030 年以降、メキシコは原油輸入国になるという予測が出ている。⁴

3. メキシコは天然ガスでも輸入超過

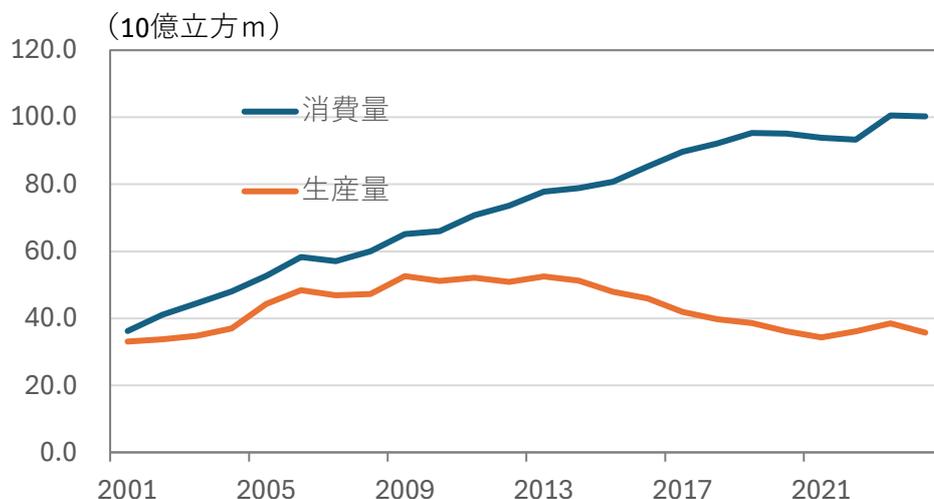
レポート冒頭でメキシコは天然ガスへの依存度が高いことを指摘したが、生産量は消費量を大きく下回っている。

元々消費量は生産量を下回っていたが、2000 年代の平均不足量は 100 億立方メートル（以下 m^3 と表示）であった。しかし 2010 年代以降需給ギャップは拡大しており、2024 年は 645 億 m^3 の不足となっている（図 4）。

なおブラジルでも天然ガスの生産量が消費量を下回っているが、2024 年の不足量は 85 億 m^3 に過ぎず、消費量も 314 億 m^3 とメキシコの消費量 1,002 億 m^3 の 3 分の 1 程度である。

⁴ <https://jp.reuters.com/markets/commodities/27WM2K23AFJT7A3YQFLEYCWAAU-2024-07-26/>

図 4 メキシコの天然ガス生産・消費量



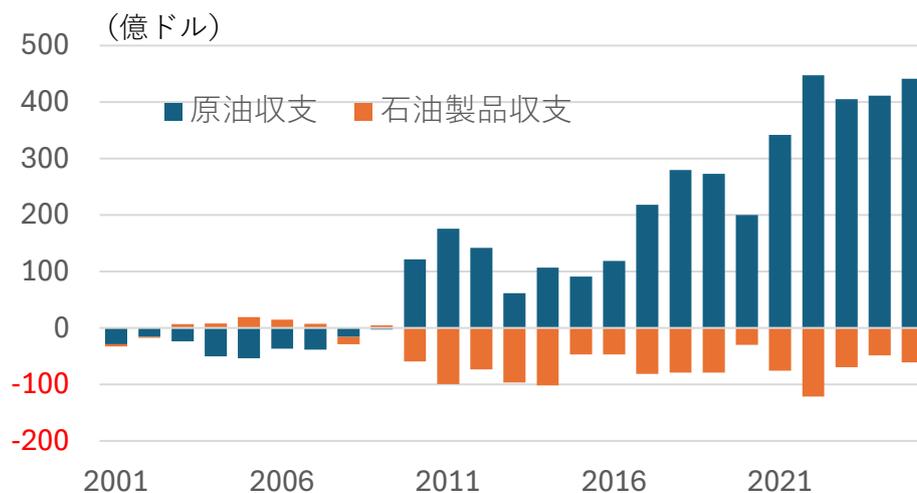
(資料) BP

4. ブラジルの石油産業は輸出にも貢献

ブラジルの石油産業は急成長しており、過去 10 年でブラジルを代表する輸出産業に育ってきている。原油と石油製品を合わせた石油収支は 2016 年の 72 億ドルの黒字から、2025 年に 381 億ドルの黒字に増加した(図 5)。

ブラジルの貿易収支は同年 681 億ドルの黒字だったので、石油貿易の黒字は全体収支の 56%に及んでいる。

図 5 ブラジルの石油貿易



(資料) ブラジル石油・天然ガス・バイオ燃料庁

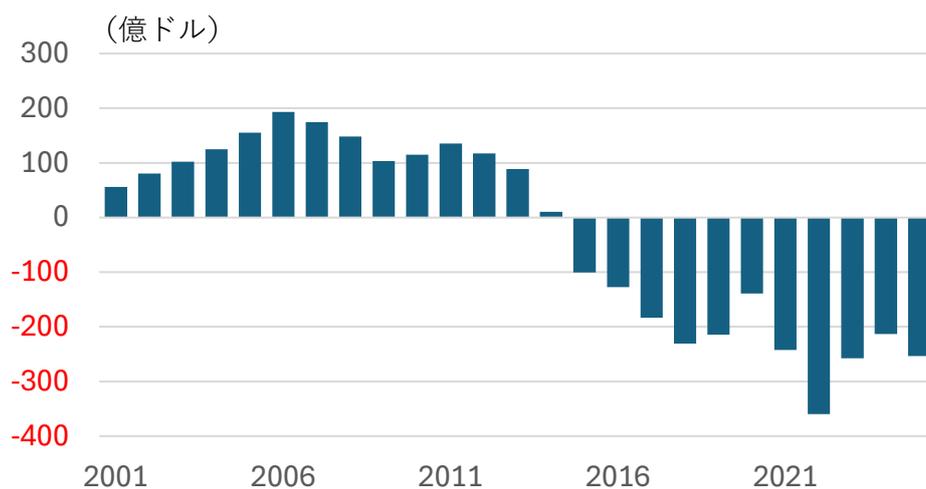
ブラジルの石油精製能力は 229 万バレル／日で、国内消費量 258 万バレル／日 (2024 年) にほぼ見合った能力を保有している。そして 2026 年の原油生産能力は 380 万バレル／日と推計されているので、100 万バレル／日以上原油輸出余地があると思われる。イラン戦争で原油の世界的ひっ迫が現実味を帯びるなか、産油国としてブラジルの地位は向上することになるだろう。

5. メキシコの課題

原油価格高騰はメキシコにとって大きな打撃となっている。メキシコはかつて産油国として知られていたが、図 3 のとおり産油量は減少している。石油収支⁵ は 2015 年から赤字になっており、2025 年は 254 億ドルの赤字である(図 6)。

輸入が増加しているのは、産油量の減少に加え、メキシコの石油精製能力が低いため原油を輸出し石油製品を再輸入しているためである。メキシコの石油精製能力は 156 万バレル／日であるが、老朽化のため実際の精製量は 79 万バレル／日 (2023 年) にとどまっている。そのため 200 万バレル／日強の原油を産出しても、100 万バレル／日以上原油を輸出せざるを得ないのである。

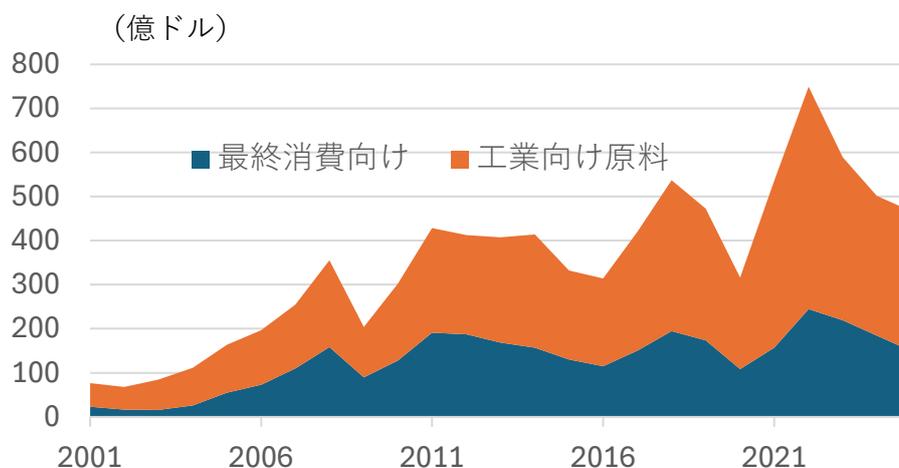
図 6 メキシコの石油収支



(資料) メキシコ地理統計院

⁵ 原油、石油製品を合わせた収支(金額ベース)。なお 2025 年のメキシコの貿易収支は 8 億ドルの黒字であった。

図 7 メキシコの石油製品輸入⁶



(資料) メキシコ地理統計院

その結果、メキシコは 2025 年、467 億ドルもの石油製品を輸入することになった(図 7)。近年では 2022 年に 749 億ドルもの輸入をしていた。⁷ メキシコ政府は製油所の設備更新を公約しており、2025 年には実際に製油量が約 10 万バレル/日増加したが、精製能力はまだまだ不足している。メキシコは産油国でありながら、原油価格上昇の恩恵を十分受けられないばかりか、国富の流出を招く構造になっている。

精製能力の向上は当面の目標であるが、メキシコの推定埋蔵量はあまり多くなく、メキシコ政府でさえメキシコの原油が 2030 年に枯渇する可能性に言及している(脚注 4)。メキシコは化石燃料に頼るのではなく再生可能エネルギーへのシフトを進めるのが得策であろう。

ところがメキシコの再生可能エネルギーへの取り組みは鈍い。発電量における、水力・太陽光・風力を合わせた自然由来エネルギーの構成比は 19.4%(2024 年)に過ぎない。ブラジルでは水力発電が盛んなうえに再生可能エネルギーの導入に積極的であるため、同比率が 79.5%に達していることを考えると、メキシコの出遅れ感は否めない。⁸

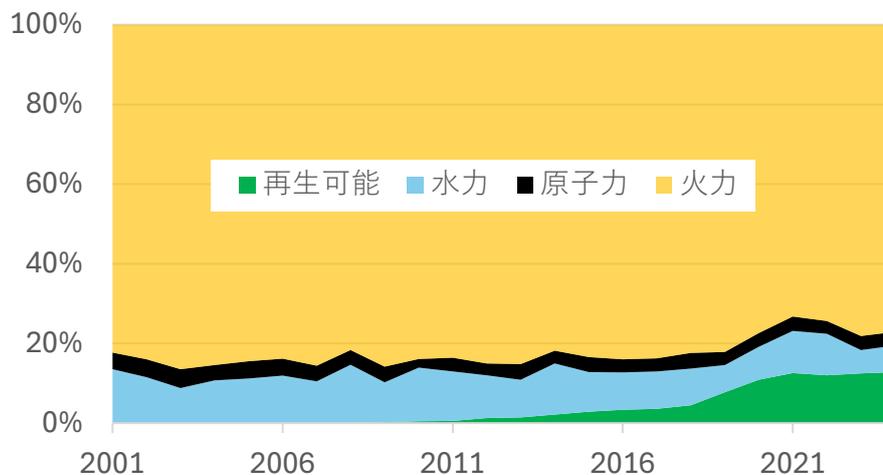
2026 年のメキシコは USMCA の更新という難しい課題を抱えているが、エネルギーの対米自立も喫緊の課題といえよう。

⁶ 最終消費向け製品とはガソリンや軽油のこと、工業向け原料とはナフサやエチレンなどプラスチック製品の原料となる製品である。

⁷ 石油製品輸入の 94.8%が米国からの輸入である(2023 年)

⁸ 利用したデータベースではバイオマス発電が火力発電に含まれているが、バイオマス発電をクリーンとして加えると 9 割近くになるという分析もある。

図 8 メキシコの電源構成



(資料) BP

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2026 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)
All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.
Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan
〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階
e-mail: admin@iima.or.jp
URL: <https://www.iima.or.jp>